

令和2年6月宮崎県定例県議会

# スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和2年6月22日

場 所 第4委員会室



令和2年6月22日（月曜日）

スポーツランド  
推進室長 飯塚 実

午前9時58分開会

会議に付した案件

○概要説明

商工観光労働部

1. スポーツランドみやぎの現状と取組について

○協議事項

1. 県内調査について
2. 次回委員課員について
3. その他

出席委員（12人）

委員	長	窪 菌 辰 也
副委員	長	河 野 哲 也
委員		星 原 透
委員		横 田 照 夫
委員		日 高 博 之
委員		日 高 陽 一
委員		脇 谷 のりこ
委員		安 田 厚 生
委員		高 橋 透
委員		渡 辺 創
委員		来 住 一 人
委員		関 師 博 規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

商工観光労働部長	松 浦 直 康
観光経済交流局長	丸 山 裕 太 郎

事務局職員出席者

政策調査課主任主事	田 中 孝 樹
政策調査課主査	持 永 展 孝

○窪菌委員長 それでは、ただいまから、スポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程でございますが、お手元に配付の日程案を御覧ください。

本日は、商工観光労働部から「スポーツランドみやぎの現状と取組」について説明をいただきます。その後、委員会の県内調査等について御協議いただきたいと思いますと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 はい。それでは、そのように決定させていただきます。

では、執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前9時59分休憩

午前10時0分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたします。

本日は、商工観光労働部においでいただきました。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表に替えさせていただきましたと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○松浦商工観光労働部長 おはようございます。商工観光労働部でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は、スポーツランドみやぎきの現状と取組について御報告をさせていただきます。御案内のとおり、本県はスポーツランドを標榜いたしまして、長年にわたってスポーツのキャンプ・合宿、それから競技会、大会等の誘致に力を入れてまいりました。取組の中で、それなりに実績も積み上げてきたと考えております。

国内におきましては、宮崎県はキャンプ地としてそれなりの地位にはあると認識をしておりますが、そんな中で今回の新型コロナウイルスでございます。なかなか厳しい状況が続いております。特にこの春季のキャンプについては、相当厳しい状況がございます。それ以降、これまでの期間におきましても、キャンプ誘致等についてなかなか厳しい状況が続いております。

あわせまして、オリンピック・パラリンピックの1年の延期に併せまして、各国からの事前合宿等も延期という状況が続いております。

こういったことへの対応が、ひとつ新しい課題として出ているのではないかと考えております。ここにどう対応していくのかを含めて、これから真剣に考えていく必要があると思っております。

本日はそういった点も含めて、スポーツランドみやぎきとして取り組んでおります今の状況や取組について、担当のスポーツランド推進室長から御説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

**○飯塚スポーツランド推進室長** それでは、委員会資料1ページをお開きください。

資料1、令和元年度県外からのスポーツキャンプ・合宿の受入実績についてであります。

スポーツキャンプ・合宿の受入実績につきましては、市町村や宿泊施設などから、団体ごと

の参加人員や滞在期間等を御報告いただき、それらを基に集計・分析した結果を毎年公表しているところであります。

まず、1の令和元年度一年間の状況であります。プロ、アマチュアを合わせまして1,017団体、参加人数2万4,883人、延べ参加人数16万3,839人であり、いずれも前年度より大きく減少となりました。

主な要因としましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのアマチュア合宿が集中する3月にキャンセルが相次いだこと、また、昨年夏に本県で開催された南部九州高校総体により、多くの競技施設、宿泊施設が利用されたため、スポーツキャンプ・合宿での利用が減少したところであります。

参考までに、スポーツ振興課に聞いたところ、南部高校総体自体の参加者は12万8,000人、それと宮崎市の宿泊だけでも3万4,000人あったということです。県全体では非常に多くの方が来られたということになります。

次のページ、2の春季キャンプ・合宿（令和2年1月～3月）の状況であります。

前ページの令和元年度実績の内数であります。団体数は282団体、参加人数は7,403人、延べ参加人数7万3,478人でした。

主なポイントに再掲をしていますが、先ほど申し上げましたとおり、多くのアマチュアスポーツキャンプ・合宿が集中する3月にキャンセルが相次いだことが、減少の要因であります。

なお、平成5年度から統計を取り始めて、今回の春季キャンプ団体数282という数字は、27回の調査のうち25番目、ワースト3の数字となったところであります。

観客数であります。球春みやぎきベースボールゲームズへの参加球団の減に伴う試合数の

減や、新型コロナウイルス感染症の影響により、減少となったところであります。

次に、経済効果等についてであります。

キャンプの参加者や観客の方々もたらした経済効果は、124億4,400万円でありました。PR効果につきましては、宮崎キャンプの様子がテレビや新聞で紹介された状況をCM・広告料金に換算したもので、67億9,100万円となったところであります。

次のページをお開きください。

4ページは、令和元年度のスポーツキャンプ・合宿受入実績を、種目別、プロアマ別、月別、市町村別、発地別に整理したのになります。種目別の内訳の表は、延べ参加者数の多い順に並べております。野球、サッカー、陸上は上位にきております。

プロアマ別内訳は、プロ、学生、社会人の順に多くなっております。

次に、月別内訳となります。右側の表とグラフを御覧ください。元々、本県では夏休みの8月と3月が多い状況ですが、前項の説明でも申し上げましたとおり、昨年度と比較し、南部九州高校総体の開催された夏と、新型コロナウイルス感染症の影響があった3月の落ち込みが大きいです。この2つの影響がなければ、今年度も昨年とほぼ同等の実績であったと考えております。

4ページを御覧ください。市町村と発地別にまとめたのになります。受入市町村数は、21市町村となっておりますが、全県化を目指して取り組んでいるところであり、夏場の涼しい気候を活用できる小林市ひなもり台のクロスカントリー、五ヶ瀬町Gパーク、木城町旧石河内小学校舎を活用した合宿や、綾町の広沢ダムでの水上スキーなど、地域の特性を活かした受入れ

が行われております。今後、さらに市町村と連携し、市町村の特性を生かした合宿の誘致に取り組んでまいります。

発地別では、九州、関東、関西の順になっております。直行便のある中部地区が少ない状況でありますので、今年度県観光協会と連携し、中部地区へのセールスを強化してまいります。国外は、引き続きゴールドenspportsイヤーを見据えた誘客強化に取り組んでまいります。

資料の5ページをお開きください。

資料2、東京オリパラ等に向けた国内外代表チームの誘致・受入状況についてであります。

1、ラグビーワールドカップ2019ですが、ラグビー日本代表及びイングランド代表が宮崎市シーガイアにて事前・公認キャンプを実施いたしました。結果は、日本代表はベスト8、イングランド代表は準優勝という輝かしい成績となりました。宮崎で合宿を行うと結果が出ると、「縁起のいい宮崎」を国内外にPRすることができました。

また、教育委員会の全面的な協力の下、日本代表の合宿中は、日本代表コンディショニングコーチによる県内指導者への技術者講習会や、日本代表スクラムコーチによる高鍋高校ラグビー部への技術指導などが行われました。イングランド代表の合宿中は、市内の高等学校で日本文化体験、特別支援学校でレクリエーションを行うなど、本県の子供たちとの交流が図られました。

また、公認キャンプ地で行われる各国別のウェルカムセレモニーにつきましては、場所選定時に主催者である組織委員会が県庁講堂を大変気に入られ、ワールドラグビー・日本ラグビー両会長も出席され、写真のとおり盛大に行われました。

2の2020東京オリンピック・パラリンピックですが、昨年度は、イギリスのトライアスロン・パラトライアスロン、カナダのトライアスロン・パラトライアスロンが合宿を行いました。特に、イギリスのトライアスロンは2回行っております。

2021年に延期になりましたオリンピック・パラリンピックの事前合宿につきましては、資料に記載のとおり、イギリス・カナダ・ドイツの各チームとも来年、時期を同じくしてキャンプを行う予定であることを確認しております。ドイツのパラ陸上につきましては、本県でキャンプを実施するとの連絡を5月に頂きました。

また、ドイツ・アメリカ・アイルランドのボクシング代表チームの関係者が本県を視察済みであり、合同キャンプの実施に向けて、現在引き続き誘致を進めております。

次に、6ページから7ページにかけてですが、3、近年における日本代表合宿の受入実績であります。

本県の合宿受入環境が広く認められ、近年、多くの日本代表が本県で合宿をしていただけるようになりました。内訳を見ますと、本県がナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されていますトライアスロン・パラトライアスロンをはじめ、侍ジャパン、男子柔道、スピードスケート、競歩などが定着しております。

ラグビーは2015年のイングランド大会事前合宿以降途絶えておりましたが、2018年から本県合宿が行われておりますので、毎年実施していただけるよう取り組んでまいります。

また、近年は聴覚障がい者のデフサッカー、デフフットサル、手や足の切断障がい者のアンブティサッカーなど、パラ競技も受け入れてお

ります。今後、パラ競技の合宿もしっかり受け入れられる体制づくりを行ってまいります。

7ページ下の参考ですが、フェニックス・シーガイア・リゾート及び周辺エリアは、オリンピック・パラリンピック種目であるゴルフ、トライアスロン、パラトライアスロンの競技別強化拠点施設として指定されております。

その主要な拠点施設となっておりますシーガイアのラグゼーツ葉では、スポーツ庁の委託事業により日本トライアスロン連合が器具を購入する形で、年々トレーニング機器、リカバリー機器などの設備整備が図られております。

他の競技の代表チームがトライアスロンの強化拠点を利用できるよう、スポーツ庁や日本トライアスロン連合とも了解を得ています。この取組は、本県独自の取組として、スポーツ庁からも評価を頂いております。引き続き、トライアスロンの強化拠点を活用した他の競技の代表チームの誘致に取り組んでまいります。

次に、8ページ、資料3、令和元年度県内で開催された主なスポーツイベントの状況です。昨年は、世界的な少年野球リーグであるポニーベースボールのアジアパシフィックゾーンチャンピオンシップトーナメントが7月1日から5日に開催され、11の国と地域から400人の選手が参加いたしました。

また、9月7日から15日にかけて、宮崎市木崎浜にて、2019 I S Aワールドサーフィンゲームスが開催されました。大会には、55の国と地域から240人の選手が参加し、期間中、8万8,000人の観客が訪れました。オリンピック出場を目指す選手には、この大会への参加が義務づけられていましたので、世界中のトップサーファーが宮崎に集結する貴重な大会となりました。

国際サーフィン連盟のアギーレ会長をはじめ、

関係者からも、宮崎のサーフィン環境と受入体制は、世界レベルであると大いに評価をしていただきました。

White buffalo HYUGA PRO（QS3000）が10月16日から20日にかけて日向市お倉ヶ浜で開催されました。大会には19の国と地域から174人の選手が参加し、期間中3,500人の観客が訪れました。

また、本県開催4回目となりましたトライアスロンワールドカップが、10月26、27日に、みやざき臨海公園周辺において開催されました。33の国と地域からトップ選手が出場しますエリート部門と、一般の方が出場するエイジ部門合わせて551名が参加し、期間中1万7,000人の観客が訪れました。エリートの部女子では、上田藍選手が優勝し、大変盛り上がりました。

9ページをお開きください。資料4、宮崎県観光振興計画の一部抜粋になります。令和元年度から令和4年度を目標年次とする4カ年計画であります。

計画の3つのプロジェクトの1つに、スポーツランドみやざきの進化を掲げております。

（1）国際水準のスポーツの聖地としてのブランド力の向上ですが、これまでの誘致実績や積み上げたノウハウを基盤として、さらなる受入体制の充実・強化を図り、大規模な世界大会の開催等を通じ、世界に向けてスポーツの聖地宮崎を発信してまいります。

（2）スポーツキャンプ・合宿及びスポーツイベントの全県化・通年化・多種目化の推進ですが、各市町村の規模、環境に即したスポーツ合宿、イベントの誘致に取り組み、全県展開を図り、一年を通じてサッカーや野球、陸上だけでなく、多くの種目の受入れを行ってまいります。

（3）スポーツを活用した観光誘客の推進ですが、観光推進課と連携し、見るスポーツで本県を訪れた方々を観光地に誘導する仕組みづくりを推進することで、観光消費額の拡大を図り、本県の恵まれた環境を活用したゴルフ、サーフィン、サイクリングなど、するスポーツによる観光振興策にも取り組んでまいります。

11ページをお開きください。

資料5、今後のスポーツキャンプ・合宿等への対応についてであります。

1、スポーツキャンプ・合宿受入れの基本的な考え方ですが、これまでの誘致実績や積み上げたノウハウを基盤に、これからの「コロナとともに生きていく社会」におけるスポーツキャンプ・合宿の受入れにおいて、各チームが求める新型コロナウイルス感染症対策に対応する体制の確立に向けて、市町村等と連携をしてしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

「新型コロナウイルス感染症経済対応方針」の抜粋になりますが、（1）から（4）に基づき受入れを行ってまいります。

具体的には、例えば予約を受ける場合には、チームメンバーの体調確認、スポーツ庁や日本オリンピック委員会から、チームが競技別に作成を指導されている各チームの合宿・練習に関するガイドラインの確認、受け入れ施設側としての受入条件の提示を行います。

受入れ時には、受け手側としての感染症拡大対策の防止対策の徹底、チームの方針に対応した感染症防止策の実施、施設利用者が遵守すべき事項の提示が必要になると考えます。

このとき注意すべきと考えられる点は、受入れ側が行っている通常レベル以上の感染症対策をチームから求められた場合、どちらが費用負担をするのか、しっかりと協議をして受け入れ

ることが、トラブル防止の点からも重要と思われます。

次に、2、スポーツイベント実施の基本的な考え方がありますが、イベント実施の判断は、先日、日本スポーツ協会が示したガイドラインでは、政府の方針、各地域の感染の状況や行政判断を優先させた上で、主催者が決定することとなっております。

県としましては、主催者に対し、感染症防止対策等の支援を行いたいと考えております。今後の本県の大きな課題として、プロ野球キャンプ時の運営において、観客をどう取り扱うのかについて、日本野球機構やチームと詰める必要があります。今後実施されます全国の大型スポーツイベント等を参考に、検討してまいります。

最後に、参考としまして、本県で開催される大きなスポーツイベントを掲載しております。それぞれのイベントについて、安心、安全に開催できるよう、主催者、市町村等と早めに検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○窪菌委員長** ありがとうございます。執行部の説明が終わりました。

御意見、質疑がございましたら、御発言をお願いいたします。

**○日高博之委員** スポーツキャンプを訪れるところは、首都圏のチームが多いと思うんですけども、今回3月のキャンプを予約しているチームが、コロナウイルスで来られず、キャンプの参加者数が減ってきた、ということですが、現状を見てもコロナ終息とまではいっていなくて、これがどこまで長引くかというところが、今年の宮崎キャンプがどうなるかの大きな課題になってくると思います。

第2波、第3波がきて、不要不急の外出を控

えるということになれば、プロ野球とはいえ、基本的に移動できないですよ。だから例えば東京ドームですということになりかねないんじゃないかなと思うんです。

プロ野球やサッカーのキャンプの予約は、そろそろ入っているかと思うんですけれども、現時点の予約状況が分かれば、教えてもらいたいなと思います。

**○飯塚スポーツランド推進室長** プロ野球やJリーグのキャンプについてですけれども、秋のキャンプについては、今回日本シリーズが11月21日からということで、例年秋のキャンプ時期にはまだペナントレース中であるという状況がございます。

日本野球機構のほうから、フェニックスリーグや秋のキャンプについての日程はまだ発表されておりませんが、秋のキャンプについては少なからず影響があるのかなと思っております。

春のキャンプについては、今のところ特に情報は入っておりませんが、状況を見ながらぼちぼち予約も入ってくるのかなと思います。今のところ状況確認まではいたしておりませんが、そういう状況でございます。

**○日高博之委員** 私も秋についてはそう思うんですよね。

ただ、去年は夏、その前の年は10月あたりに、ラグビージャパンとかが来ていましたね。そのジャパンの合宿が秋口になるのかなと思うんですけども、ラグビーというのは接触を伴うスポーツでもありますよね。合宿キャンプだと、シーガイアのスクエア1に来ますけれども、受入れはどう考えればいいのか、認識をお聞きしたい。

**○飯塚スポーツランド推進室長** おっしゃるとおり、実は今年の6月ぐらいにも、7月4日に



イングランドと日本代表が大分で合宿をするということで、宮崎で合宿していただけないかとのやり取りはチームとしていたところです。ただ、試合自体が中止となりました。

後はおっしゃるとおり、秋に向けて、日本代表が合宿される場合は、ぜひ宮崎でというアプローチは引き続きかけております。

ラグビーの練習につきましては、先日報道が出ておりましたが、まずはタッチするところから始まり、どんどん接触密度を上げていくことが示されました。

もう一つ心配しておりますのは、スクエア1に日本代表が来た場合、おそらく相当の方が来られるんですが、野球と違って見るエリアが限られていますので、そこにどう観客を入れていくか、見せられるのかを、チーム側とも検討していきたいと考えております。

**○日高博之委員** 秋にラグビージャパンが来られた場合を想定して、見るエリアがないのであれば当然、例えば仮設の何かを作るとかしなければなりません。また、マスコミが相当来ますし、10月ぐらいになってくると、コロナの問題が出てくるでしょうから、コロナ対策というのを徹底的にやらないといけませんね。

10月にどういう状況であるかは分からないから、今、折衝をやりながら、その時点の状況に合わせてやりますと決めていく必要があって、コロナが入ってくるとスケジューリングや動線はこうなりますよ、ということ、今から取りかかっていくことが重要だと思うんですけれども、そういった対応はどうされていますか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 確かに、選手が来るだけでなく、ぜひ多くの方にも見てもらって、お金を落としていただきたい取組なので、しっかり考えていきたいと思っております。

今のところ、スポーツ庁などからガイドラインが少しずつ出されている状況でございます。先週、陸上競技会等のガイドラインができて、もうすぐロードレースのガイドラインができるかと聞いております。そういったものを読み込みながら、主催者側等と連携していきたいと考えております。

**○横田委員** 木崎浜ですけれども、昨年もワールドサーフィンゲームスで8万8,000人の方が来られて、すごく評判もよかった、ということですが、例えば施設やアクセス道路などに対する要望や意見は届いていないのでしょうか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 木崎浜の施設整備につきましては、離合がなかなか難しい浜のところを、ワールドサーフィンゲームに併せて昨年度改修していただいて、浜の道路は一応きれいにはなりました。

それから今年度、予算を事業化しているのが電源です。あそこには電源がないものですから、今年度電源を引かせていただきたい。それと、来年度に向けて、今年度シャワールームと更衣室の実施設計を予定しております。併せまして、今後その両方の乗り入れ道の、離合が厳しい部分については、ちょっと時間がかかるんですが、県土整備部等と連携しながら整備に向けて検討しているところであります。

**○横田委員** 随分前ですけれども、アクセス道路については、私も一般質問で取り上げました。そのときに、やりますと答弁してもらったような記憶があるんですけども。世界大会をして、多くの方が観戦に来られるようになってきているわけだから、それなりの道路にするべきじゃないかなと思います。

それと、国道220号から木崎浜に入るところに案内板が多分一つもないと思うんですよ。私は

いつも気をつけながら通るんだけど、そういったものも必要じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 乗り入れ道につきましては、整備するように県土整備部と協議を進めてまいります。

看板につきましては、御指摘のとおりでございますので、また施設管理者と検討をしていきたいと思っております。津波看板とか、いろんな注意喚起看板は立てていっているところです。

**○星原委員** 参考資料でもいいから、宮崎県だけじゃなくて、九州の状況がどうなのかということと比較しながらでないと、なかなか意見を出せないのよね。

コロナにおける合宿団体数や参加人数について、よその県がどうだったのかということ参考資料で併せて出してくれると、比較しながらいろんな意見も出てくるのかなと思う。それと、九州管内でも、コロナの影響が小さかった県や大きかった県とか、その原因が何なのか、状態がいい施設があるかないか、といったことね。あるいはその県の受入れの状況や、市町村の受入れの状況と比較しないと、宮崎の今後についてどうしたらいいかという話になると、我々ですればなかなか分からないんですよ。

できればそういう取組や内容、参加人数や団体数など、いろんな要素を比較しながら、宮崎に欠けている点、宮崎が優れている点は何なのか、今後に向けてはどういう取組をすべきじゃないか、という形の資料がないと、ただ減ったということしか分からないのでね。次に向けてこういうことをやったらどうだとか、もう少し施設整備に力を入れたらとか、あるいはスポーツ団体などを誘客するためには、もう少しいろんな人脈の使い方があるんじゃないかとか、い

ろんなことがあると思うんですよ。

そういった比較をやっていかないと、取組が見えてこないと思うんですが、その辺はどうなんですか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 御指摘いただきましたが、なかなか九州各県の比較とまで、正直きちんと分析ができておらない状況もございますので、本県の状況だけでなく、ライバル県を含め他県の情報を比較しながら、対策を組み立てていくようにしたいと思います。

**○星原委員** なぜそういうことを言ったかというと、宮崎に一番来ている団体は、野球やサッカーですけれども、2年前だったか沖縄県に行ったら、沖縄もかなりスポーツキャンプやらスポーツ施設の充実整備に力を入れているんですよ。春先のキャンプなんかだと温暖というものもあるかもしれないですが、練習試合等をやるために、チーム数が多く来るところにみんな行くんですよ。神戸製鋼のラグビーチームから話を聞いたとき、「1チームだけではなかなかキャンプしづらい。最低2チームは来てもらって、それで練習試合とかしないといけないので、どうしてもそういう取組がないと無理なんですよ」と言われたんですけども、各スポーツで、組み合わせや練習試合が出てくるんで、そのためには県内にそれだけのものを準備しないと、「来てください」だけではなかなか厳しくなっているんじゃないかなと思うもんですから。

さっき言ったような資料を出していただいて、他県との比較をして、我々にもいろいろ情報を入れてもらえば、こういう委員会で今後に向けての取組なんかの話ができるんじゃないかなと思います。

よそが参考資料で出してくれるかどうか分かりませんが、前年度じゃなくても過去5

年ぐらいの間のもを見ていけば、流れは大体分かると思うので、そういう資料を出していただけるとありがたいですね。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 御指摘のとおり、沖縄は非常に脅威に感じていて、Jリーグもかなり沖縄に抜けてしまっております。しっかり分析して対応してまいりたいと思います。

**○日高博之委員** この4ページの団体数、参加人数、延べ参加者数を出してもらっている市町村別内訳ですけれどもね。県営施設は宮崎市にあるし、宮崎市もいろんな競技施設を持って、備えているということで、宮崎市ばかりに人が集中しているんですよ。

全県下でスポーツランドをと言うんだけれども、現実的には無理ですよ。県は施設整備の通年化をしているから予算があるんだろうけども、市町村には通年の施設整備の予算はないわけですよ。じゃあ、さっき星原委員が言ったように、神戸製鋼さんが近くに何かどこか欲しいと言ったからといって、どこにでもそういうグラウンドがあるわけではない。となると、宮崎市しか選ばれませんよ、というわけですよ。

だから、市町村とガイドラインじゃないですけども、県南なら県南でどういうふうな状況で、どこにラグビー場やサッカー場、野球場があって、この辺とこの辺とつなげていこうとか、プロとアマをどうつなげていこうとか、県が戦略を打ってこそその全県化・通年化だと思うんですよ。

これを見たら、もう県と宮崎市でやってもらったほうがいいのかなと思うんですよ。空港も近いし、宿泊所もあるしね。

だから、全県化といっても、閑散期はできないし、国体でもそうですけれども、市町村にはそんなに金もないし。でも宮崎市内はあるわけ

ですよ、競技場には金も出すし。他の市町村にはできるわけないです。町長やらは設備もないし金も払ってくれないのに、無理やり県から言われても、そんなのはできませんよ、という話をされてたりしますからね。

この通年化や全県化について実際どう考えているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 宮崎市には大きな大会とか、大規模合宿等がありますけれども、県内全域にその規模に応じた宿泊施設とか、スポーツ施設の規模に応じた宿泊が1つでも入るように、観光協会と連携して取り組んでいるところでございますので、1つでもほかの市町村が増えるように頑張っただけでいいと思います。

**○日高博之委員** いや、だからもう宮崎市を徹底的に磨いたほうがいいんじゃないですか。この感覚でいくと、宮崎市を中心にスポーツランドみやざきをやって、合宿を集めて経済効果も生むほうがいいんじゃないかなと思いますよね。

だから、どこをつなげていくという戦略——なるほどそれがあんなら、例えば県北や県西にも行くよ、という戦略を打たなきゃ。

また実を言うと、沖縄のスポーツ施設よりも宮崎のスポーツ施設のほうが、格段レベルは上なんですよ。私の感覚では、スポーツキャンプは別として、大きい大会やらは、まだまだ呼び込めると思うんですよ。宮崎は相当ポテンシャルが高いと思うんですが。

**○丸山観光経済交流局長** 大変重要な御指摘をいただきまして、ありがとうございます。スポーツランドみやざきというのは、県の観光を支える大きなポテンシャル、財産でございまして、宿泊稼働率を見ますと、2月と11月、ほかの県と比べて宮崎県はここだけが突出して宿泊の稼

働率が高くなっております。まさに経済効果が高い観光の柱でございます。

そういう意味で、全県化、通年化、多様化ということ宮崎市だけではなくて、手を広げようという思いで、取り組んでいるところでございます。

ただ、現実といたしまして、スポーツランドみやざきという場合に、いわゆるプロスポーツ、トップアスリートの方は競技会場や宿泊施設にどうしてもある程度の水準を求められますので、やっぱり宮崎市中心とか、それなりの施設が整っているところに限られてまいります。

一方で、社会人や学生、またいろんな野球、サッカー以外のスポーツにつきましては、例えば五ヶ瀬町で涼しい季節に陸上をするとか、地域に根差したいろんな取組があろうかと思っております。

そういう意味で、私どもはプロスポーツだけを誘致するのではなくて、社会人、学生も含めて何とか全県化、通年化ということで、スポーツランドみやざきの効果というのを少しずつでも広げようという思いで、市町村と連携して取り組もうとしております。

いろんな助成的な事業というのも、これから考えていきたいと思っておりますし、ウィズコロナを意識した取組も必要でございます。市町村にどういった課題があって、コロナに向けてこれから何をしなくちゃいけないかというところを、しっかり頭をそろえて協議をしながら次の手を打っていこうと、今飯塚室長とも協議を重ねているところでございます。

**○日高博之委員** あともう一步のところをびしゃっとやれば、例えばJリーグが来るだとか、そういうポイントがありますよね。いずれ効果が出てくるわけですから、市町村とそういっ

たことをやっていければいいと思うんですよ。

また、高原町の合宿団体がゼロと出てますが、局長は知っていると思うんですけども、高原総合運動公園なんか立派なグラウンドですよ。でもゼロというのは、これはないと思うんですよ。

高原町と県と一緒に、どういう問題があってどうすればいいのかと考えれば、ラグビーやサッカーの合宿も可能だと思うんです。でも、町立の総合公園だから、県は1円も出せないの、そっちでやってくださいということでは、いつまでも進まないですよ。

だから、県がやれることと、市町村にやってもらいたいこととが、リンクしていかないと、全県的に広まっていきませんね。今期はコロナでいろいろあるでしょうけれども、そういう取組をやっていただきたい。ひとつよろしく願います。

**○高橋委員** スポーツイベントが再開されたときに、いわゆる新しい生活様式で、客席の在り方も相当変わってくると思うんですよ。満席にできないわけでしょう。ということは、これからのイベントというのは、今までの観客の数を見込めない。だから、回数をこなさないと、今までの実績は多分確保できないと思うんですよ。そこら辺の具体的なガイドラインは、まだ示されていないんですね。

**○飯塚スポーツランド推進室長** スポーツイベントにつきましては、例えば1,000人規模とか、時期に応じて5,500人とか、収容人数の50%とかというのが段階的に大まかには提示されております。

ただ、先ほど申しました陸上競技のガイドラインを見たのですが、例えば感染者が出た場合、隔離できるテントを別に用意しなさいとか、競

技のローテーションに時間をかけなさいとか、そういった制約が出てくるようであります。今後は、そのあたりに注意しながらの運営にならざるを得ない部分があると考えております。

**○高橋委員** 私が申し上げたいのは、例えば体育館にしても、今までは隣り合わせで座れたじゃないですか。だから、1,000人入るところが今からは500人とかならざるを得ないわけでしょう。そういったところも覚悟しなければならないと理解したらいいんですかね。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 今のところ示されているのが、6月19日からは屋内は1,000人が上限とかですね、7月10日から5,000人、8月1日からは、今のところ上限なし、制限なしとなっております。

**○高橋委員** 私が申し上げたいのは、それは全体の数でしょうけれども、例えばこうやって今までは座れたじゃないですか。もう一席空けて座りなさいと、そういうガイドラインになることはないですかという質問です。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 十分な間隔、できれば2メートルというのは残ります。

**○高橋委員** であれば、陸上競技場にしても体育館にしても、ひょっとしたら今までの半分が満席ということになると理解する必要がありますね。分かりました。

続けて聞かせてください。国民スポーツ大会の後に障害者スポーツ大会がありますね。バリアフリー観光については取組をさせていただいていると思うんですけども、どちらかと言えばちょっと後れぎみで、仮に障害者スポーツ大会を今やったときに、宿泊施設は受入れが可能なんですか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 現状では十分でないと考えております。観光推進課の今年度

の事業で、ユニバーサルの旅行を推進するということと、民間宿泊施設の施設改修費の助成、公共トイレ等への改修費等も盛り込んでいるところがございますが、今後いろいろな整備が必要だと考えております。

**○高橋委員** パラトリアスロンとか、徐々に合宿にもお見えになっていますね。お金がかかる部分がありますから、ホテル側の協力も非常に大事になってくるので、急いでこのバリアフリーについてやられたほうがいいでしょう。障害者スポーツ大会にとどまらず、高齢者を呼び込む観光にもつながってくるので、ぜひ早く取り組んでいただくようお願いしたいと思います。

**○丸山観光経済交流局長** ユニバーサルツーリズムということで、パラ選手や高齢者の方に対応できる観光施設や観光ルートを御案内するための事業を、今年度、新規事業で観光推進課のほうで取り組むこととしております。

昨年度まで私は障がい福祉課にありましたけれども、障がい福祉課のほうでバリアフリー関係のマップづくりを行い、その前段をつくったところがございます。その中で、施設整備につきましても補助事業ということで、2か年間で事業者から十幾つか手が上がって、県から助成をしたところがございます。

その助成についても、ハード整備についても、今年度も引き続き行うスキームになっておりますので、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

**○日高陽一委員** 7ページに、NTCの指定として3つ出ていますけれども、宮崎でオーシャンドームの跡地にNTCが誘致されるとかいうお話も聞いたりしています。国と連携してやっていくというのは、本当に大事だと思うんです

が、今後このNTC自体を増やしていくという、連携していくという動きというのはあるんでしょうか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** この競技別強化拠点は、全国で41ございます。そのうち、本県には3つあるということです。

昨年度、その41か所ある拠点の機能強化を図りなさい、という方向性がスポーツ庁から出まして、それまでトライアスロン連合とシーガイアさんでつくっていた会議に、宮崎大学や、県、市、スポーツ協会も入っていただいて、この施設自体について全体で協議し、有効活用していくという流れになっております。

そうした中で、今後はナショナルトレーニングセンター本部とのデータの交換や、データ測定の実施など、機能の強化を図っていくことにしております。

**○日高陽一委員** ほかの競技を引っ張ってくるというのは、なかなか厳しいということになりますよね。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 日本スポーツ協会とかスポーツ庁がそれぞれ決定していくところもございますが、委員御指摘のとおり、積極的に取りにいく姿勢も大事だと思います。例えばオープンウォーターとか、ほかの競技がございまして、そういった可能性も積極的に考えていきたいと思っております。

**○日高陽一委員** 先ほど星原委員からも話がありました、沖縄が合宿誘致に力を入れているということで、やっぱり他県にないものを持つておかないといけないなど。議員になって一番初めにスポーツ医療の質問をさせていただいて、「積極的に取り組んでいきますよ」というお話があったんですが、実際そういう動きというのも今あるんでしょうか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** コロナの影響でまだシーガイアさんのほうでお披露目ができていないのですが、日本トライアスロン連合がリカバリー機器などを購入して、ラグゼーツ葉がすばらしい施設になっています。今回リカバリー機能を強化するその先には、今はできない医療、採血を宮崎大学と連携してできないかと協議を進めているところでございます。

**○日高陽一委員** キャンプの時期でも、選手がけがをしてしまったら東京に戻るという話を聞きます。

宮崎にも、サッカージャパンのチームドクターをされていた、膝の手術だったらこの人だ、と全国から手術を受けに来るといって、そういう先生もいらっしゃる。

また、トミー・ジョン手術では有名な方で、お弟子さんが世界にもたくさんいらっしゃるという、そういう方も例えば宮崎に来ていただいて、宮崎にはこんなドクターがそろっているんですよ、というような発信をするのも、誘致の一つになるかなと思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思っております。お願いします。

**○日高博之委員** 今の話は、多分宮崎大学がどうかやってくれませんかって県に言っているんじゃないですかね。県が言っているだけじゃなくて、宮崎大学が県にお願いをしているんじゃないですか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 実際にトライアスロン連合から、医療行為ができないということで申し入れがありまして、宮崎大学に協力を依頼しておるところでございます。

**○日高博之委員** そういった施設整備について、市町村に支援ができるような予算ってなかったんですかね。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 魅力ある観光

地づくりというものの中で、スポーツ機器等の補助はございましたが、昨年度まででしたので、またそういった支援制度ができるように検討してまいります。

**○日高博之委員** 国体もあります。当然、いろんな競技が出ますよね。少年競技があったりしますよね。地域でそういう競技をするのに、グラウンドも使ったりするじゃないですか。県で整備する体育館と陸上競技場とプールだけじゃなくて、そっちのほうも考えたほうがいいのではないですかね。

そのために、予算が呼び水になるんですよ。例えば100万円かかるところに県が30万円出しますよとなれば、県がちょっと出してくれるからやりましようかね、となるんですよ。

そういったことは、全県化を目指す中では必要ですから、考えてもらわないと思います、どうでしょうか。

**○松浦商工観光労働部長** 大変重要な御指摘だと思っております。どういうやり方がいいのかは別にしまして、やる気のある市町村と、こういうことをやりたい、こういうことができるんじゃないかといったディスカッションは、やらなければいけないと思っております。

国体の絡みで、都城市や延岡市と、相当議論をしました。いろんな思いを持ってされていて、次のステップがあるならこういったこともやりたいという話も聞いております。併せて競技団体とも話をする中で、こんなことができないかとアイデアも出て来ておりますので、そのあたりをまずやらなければいけないなと思っております。

そういう中で、国民スポーツ大会に向けては、3つのその競技施設だけではなくて、いろんな整備が必要になってまいりますので、そこにつ

いての支援制度なりというのは、恐らく総合政策部のほうで用意されることになると思いますけれども、市町村ともお互い意思疎通も図り、そこにスポーツ団体も入っていただきながら、どういう形でチームを引っ張っていってくれるんだろうとかいうようなことも、しっかりやっていく必要があると思いますし、やっていきたいと思っております。

予算云々というところについては、課題ということで、受け止めさせていただきたいと思っております。

**○函師委員** 11ページの中段あたりで、受入れ時の、またその米印の中の理解の仕方を教えていただきたい。感染流行地域から受入れをする場合は、当該自治体の首長により外出自粛要請などがとられた地域から、と注意書きがあるんですが、当該自治体の首長が要請を出すということは、例えば東京アラートや大阪モデル、北海道独自の外出自粛が思い浮かぶんですが、それらが該当すると理解してよろしいでしょうか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 感染が流行している地域という定義が、ここでは自治体の首長が外出自粛要請を出したというケースをもって感染流行地域と位置づけると思っておりますので、それぞれのアラートが自粛をする基準であればそうなります。それぞれの自治体が外出自粛要請を出した場合に、感染流行地域と見ると考えております。

**○函師委員** 東京アラートもそれに該当するし、各自治体で基準を持っているところに関しては、それが発動されている期間中に受け入れる場合には、本県に来てからも2週間の自粛を要請するというような流れになるということですね。

それはそれでいいかとは思いますが、例えば本県がこのスポーツキャンプとか合宿を受け

入れるにあたって、他県にない受入れ体制によって差別化をしていくことで、優先的に選んでもらえることにつながるかと思います。現在、県内のPCR検査に関しては、ドクターの指示がないとできないという体制になっているのですが、本県に合宿やキャンプに来てくれるところに関しては、医師の指示がなくても、県主導で優先的にPCR検査や抗体抗原検査をしますよという体制とか、空港や競技場、ホテルに入る前にドライブスルー的な検査ができますよというような体制整備は、考えていらっしゃるんですか。

**○飯塚スポーツランド推進室長** 大変重要な部分だと考えておまして、実は検討はしております。例えば今回プロ野球選手はどのような検査を行い、幾ら費用がかかったのか、それによって本県の医療機関に対する負担は生じないのか等を考えながら、対応できれば本県の強みになると考えていますので、検討してまいりたいと考えております。

**○医師委員** これから各スポーツのガイドラインが示されるという説明が最初あったんですが、そのガイドラインの中にも、検査の徹底とか、スポーツでの遠征や合宿、大会開催の際に、選手には検査を義務づけなさいというようなガイドラインが出る可能性が高いと思います。それよりも先手を打って、本県に来る選手や関係者には、県主体で検査ができますよということも、アピールのポイントになろうかと思いますので、前向きな御検討をお願いします。

**○星原委員** 説明の中で、5ページ辺りにワールドカップラグビー、東京オリンピック・パラリンピックとか、説明がしてあるんですが、こういうのは一過性なんですよね。

だから、経済的な面で言えば、社会人や大学、

高校とか、そういう毎年リピーター的に使ってくれるようなところをいかに見つけていかにつながっていくかというのが大事じゃないかなと思うんですよね。

ですから、そういう社会人や大学が何を求めているのかも調査してほしいなと思うんです。

それと、この市町村別の表で綾町を見ると、すごい数字が出ていて、町であってもこれだけのことがやれるということですよ。

先ほど日高博之委員が言っていましたが、今度の国民スポーツ大会のために施設をつくる予算というのは、町村はなかなか厳しいと思うんですよね。なので、宮崎がスポーツランドみやぎきを全面に、観光分野から経済分野からいろんなことで押していくのであれば、施設とか整備に金がかかるものについては、県のほうでかなり応援しないとイケないと思うんです。

それでそういう施設を造った後、施設を活かして運営していくとかの取組は、町村がやってもらう形で——綾町の上の国富町も、人口的には綾町より国富のほうが多いんですけれども、スポーツ合宿の人数でいけば、少ない数字が出ているので——どう取り組んでいくか、全県下で一緒になって市町村でやるためには、何をしていくべきか、どういうところをどのような形で整備するのか、運営するのかを、市町村と県との間で話し合いというか、スポーツランドみやぎきの今後に向けて、そういう狙いをちゃんと決めてやっていくべきじゃないかなと思うんですよね。

極端に偏っているのがいいかということ、私は疑問なんで、今回の国民スポーツ大会にしても、分散型と決めて、施設の大きなものは県北、県央、県南に置く形になったんですね。それと同じで、ほかの部分においても、26市町村と県と



の間でうまい連携の取り方をしないと、なかなか宮崎県がスポーツランドと言っても、限られた中でしか動かないんじゃないかなと思うので、宮崎以外の九州各県の取組や、人数、参加団体といったものを見させていただいて、宮崎に何が欠けているかという視点が大事じゃないかなと思うので、ぜひそういう角度から考えていただきたいなと思うんですが、どうですかね。

**○松浦商工観光労働部長** 非常に重要な御指摘だと思っております。特に、先々あります国民スポーツ大会に向けて、自分のところでこれをやりたい、これを盛んにしたいという思いを持ってされている市町村もたくさんあります。

そういう中で、例えば施設整備についても、大会開催の基準に合わないところは併せて整備しなければいけませんので、そういったところへの補助事業などについては、当然県としても組んでいくことになると思います。それから、例えば仮設で一旦対応するものについても、県が直接整備したい場合もあります。

そういったところも含めて、市町村と、特に、このスポーツを高めていきたいんだといった御希望がある市町村と、意思疎通を図って、どういう取組をすべきか、あるいはどのような誘致等を行うべきか等も含めて話し合いをしながら、一緒にやっていくような形に持っていきたいと思っております。

**○星原委員** そのようにしていただきたいし、やはり観光だけではなかなかなので、健康を求める上でも、スポーツ観光というのがやっぱりこれからの目玉じゃないかなと。

そういう中で、子供からお年寄りまで誰でも簡単にできるパークゴルフやグラウンドゴルフが整備されると、観光客に半日ぐらいそういう体験をさせるというのを、観光会社あたりに取

り入れてもらったり、あるいは宮崎は第1次産業が盛んなので、食べる物と併せて健康食品みたいな感じでやっていくとか、トータルで宮崎のスポーツランドやスポーツ合宿、観光までひっくるめたそういう形の取組をぜひ考えてほしいなと思いますので、よろしく願いしておきます。

**○窪菌委員長** ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**○窪菌委員長** それではないようですので、これで終わりたいと思います。

執行部の皆さん方には、御退席いただいて結構でございます。大変ありがとうございました。お疲れさんでございました。

暫時休憩いたします。

午前11時11分休憩

---

午前11時13分再開

**○窪菌委員長** それでは、委員会を再開いたします。

協議事項に入ります前に、前回の委員会で決定されました調査事項等について、参考資料等に記載しておりますので、御確認いただきたいと思っております。

それでは、協議に入ります。

まず、協議の（1）でございます。県内調査についてであります。

まず、7月28日から7月29日に実施予定の県南調査ですが、資料1を御覧ください。

前回の委員会におきまして、県内調査先についても正副委員長に御一任いただきましたので、御覧のような日程案を策定いたしました。

まず、7月28日ですが、小林高校を訪問し、競技力強化指定校としての取組、中学校との連携、体育コースの概要について調査する予定で

あります。

次に、伊佐市でございます。菱刈カヌー競技場を訪問いたします。競技場の維持管理及び競技場を利用した地域おこしについて調査する予定であります。調査後は、鹿児島市内に宿泊予定であります。

それと、翌29日でございます。株式会社KAGOSPORTSにお話をお伺いいたします。スポーツ栄養マネジメントによる競技力向上についてお話を伺うほか、スポーツと食を組み合わせたビジネスの今後の展望について伺う予定であります。

最後に、日章学園高等学校を訪問します。

日章学園では、競技力の向上・維持のための環境整備面の取組、OBが競技を続けるための取組について調査する予定でございます。

以上のような行程で考えております。

なお、県南調査につきましては、調査先との調整もある程度進めていただいておりますので、できればこの案で御了承いただきたいと思っております。よろしいでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○窪菌委員長** はい。それでは、そのように決定をいたします。

なお、諸般の事情により、若干の変更が出てくる場合もあるかもしれませんが、正副委員長に御一任をいただきますようお願いいたします。よろしいですね。

また、なお調査時の服装でございますけれども、服装につきましては、夏季軽装についてお願いいたします。

続きまして、8月25日から26日に実施予定の県北調査についてであります。

今回の委員会は、7月21日に開催予定であり、そこから県北地区の調査まであまり時間がない

ため、早めに調査先を選定しておく必要があります。正副委員長でも、調査事項を踏まえた調査先をあらかじめ検討しているところであります。

例えば、延岡星雲高校のアーチェリー部、それと高千穂高校剣道部などの調査を検討しているところでございます。

今申し上げました内容も含め、県北調査について御意見、御要望があれば、お伺いしたいと思います。何かございますでしょうか。

暫時休憩いたします。

午前11時17分休憩

午前11時22分再開

**○窪菌委員長** 協議を再開いたします。

いろいろ意見があったところですが、ただいまの委員の御意見を参考にしまして、次回の委員会において県北調査の行程案をお示ししたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、協議事項（2）でございます。

次回委員会についてであります。次回委員会につきましては、7月21日火曜でございますが、開催を予定しております。

今回の委員会では、総合政策部と福祉保健部に、国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会に向けた具体的な取組状況を伺う方向で検討しております。

今回の委員会での執行部への説明資料要求について、何か御意見等がございましたら、御要望はございませんか。

**○星原委員** 国体に向けていろんな施設を造る中で、施設に県産の木材を使って、宮崎らしさを出すことに力を入れてもらいたいなど思っているの、その辺の状況を聞きたいですね。

**○窪菌委員長** 今度は総合政策部と福祉保健部

令和2年6月22日（月曜日）

が来ますので、次回はそういった要望も含めて開催するということになろうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、(3)のその他でございますが、皆さんのほうから何かございましたらということですが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、次回の委員会は、7月21日、午前10時から予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして本日の委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前11時25分閉会



署 名

スポーツ振興対策特別委員会委員長 窪 菌 辰 也

